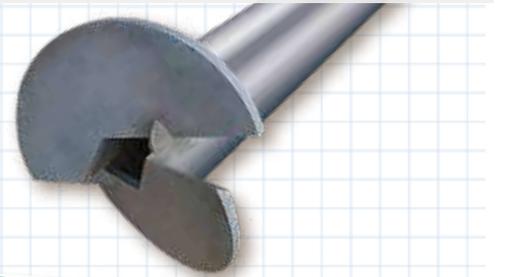


鋼管杭の技術を応用した、未だかつてない自立式擁壁工法

鋼管杭と現場打ちコンクリート壁との一体化により剛性の高い構造体となっております。基礎底板を要しないことから、敷地高低差を含む作業環境が狭隘な場所など直線・曲線、敷地形状もさまざまな条件下に対応できる自由度の高い自立式擁壁です。大臣認定工法等の杭基礎と併用することで、設計時耐力の安全確保と施工時の品質管理を確実に行うことができます。

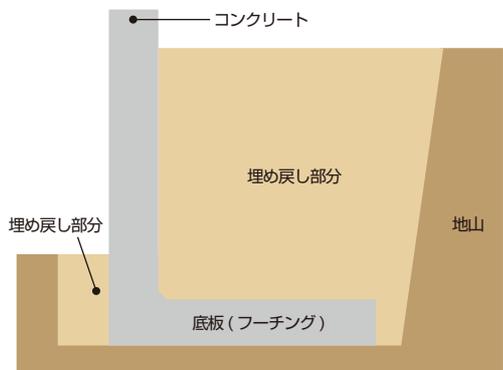
*本工法は当社の特許工法となっております。



YOSAKU工法の特徴

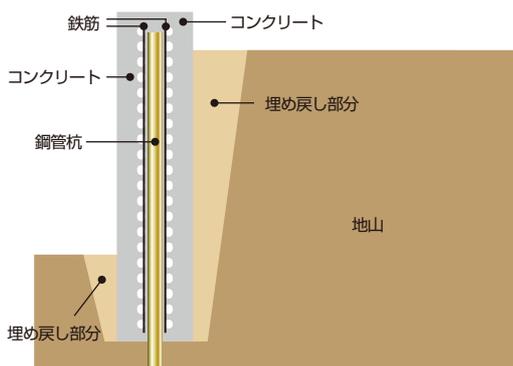
- 1 従来のL型擁壁に比べ本工法はI型擁壁となります。
- 2 フーチングレス擁壁のため「鉛直荷重÷壁面重量」となり、L型擁壁に比べ軟弱地による杭基礎・地盤改良等の補強工事の軽減が図れます。
- 3 掘削範囲が小さいため、固い地山や既存建築物・構造物への影響が抑制できます。
- 4 既存壁の保護・改修、建築物との近接施工が可能な他、狭小路・狭隘地等、幅広く活用することができます。
- 5 掘削・運搬・処分等、作業量を大幅に削減することで、短納期・短工期ともに高い経済性を発揮いたします。

L型擁壁(一般的な工法)



掘削領域が大きいため、埋め戻し(埋土)部分が大きくなる。

I型擁壁(YOSAKU工法)



掘削領域が小さいため、固い地山をほとんど崩さず施工可能。

工法の概要



- 1 鋼管杭を横方向・柱列式に打設貫入していきます。



- 2 基礎部分(壁面最下部)を構築し、壁面部分の鉄筋を配筋します。



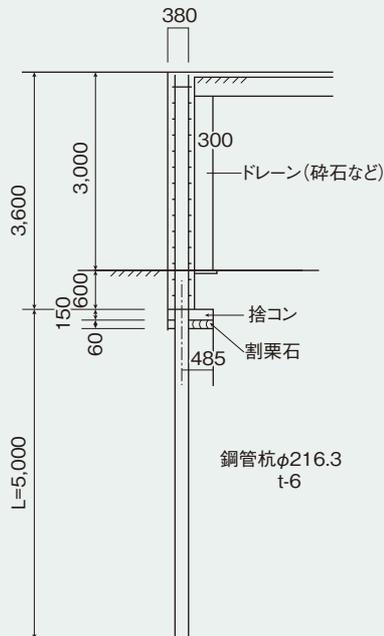
- 3 型枠を建て込み、コンクリートを充填します。



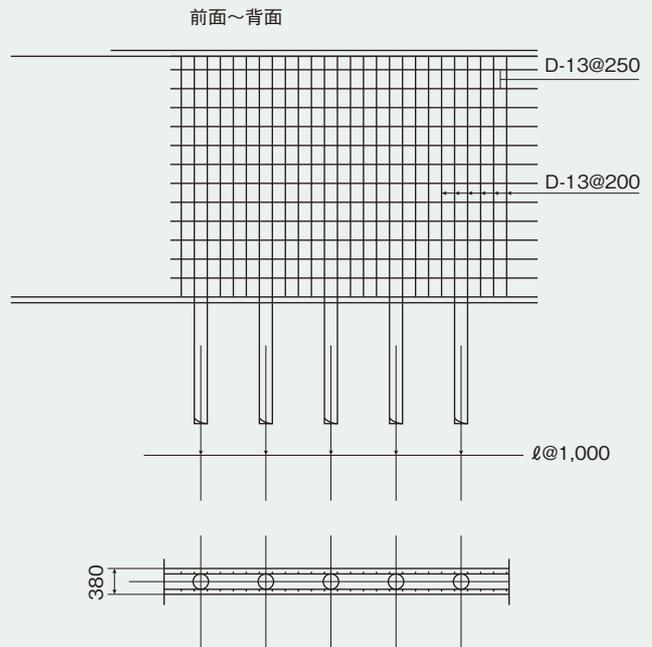
- 4 所定養生期間を経て型枠を外したら完成です。

<参考図>H-3.0タイプ自立式擁壁

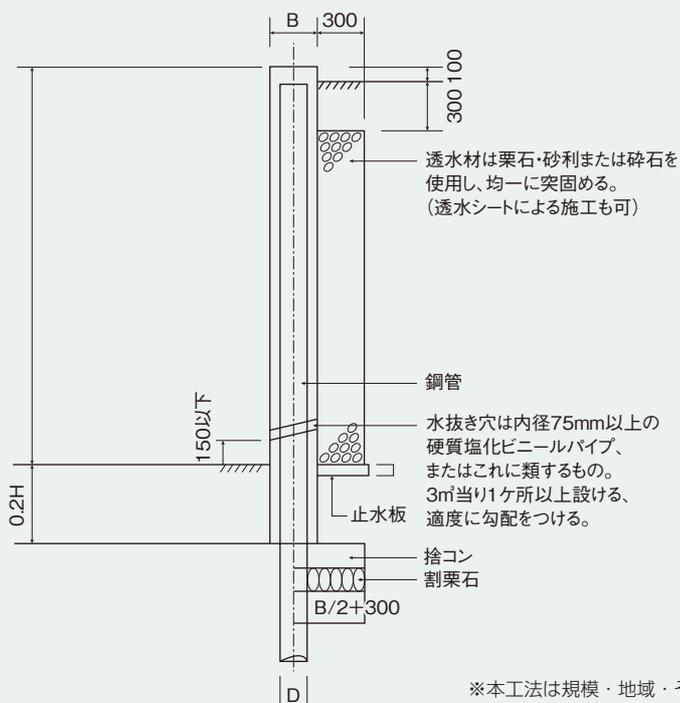
■断面図



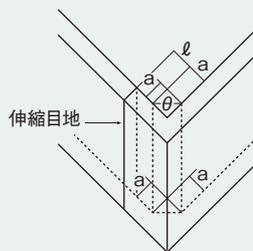
■縦横配筋図



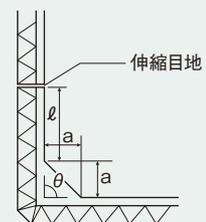
■断面図



■立体図



■練積み造擁壁平面図



擁壁が折れる場合はコーナーを補強すること。 $\theta=60^\circ\sim 120^\circ$
伸縮目地の位置…ℓは6.0～7.5mとする。
擁壁の高さが3m以下のとき a=50cm
擁壁の高さが3m超えるとき a=60cm

※本工法は規模・地域・その他の条件により、行政の許可が必要となるため、必ず事前にご相談ください。

